

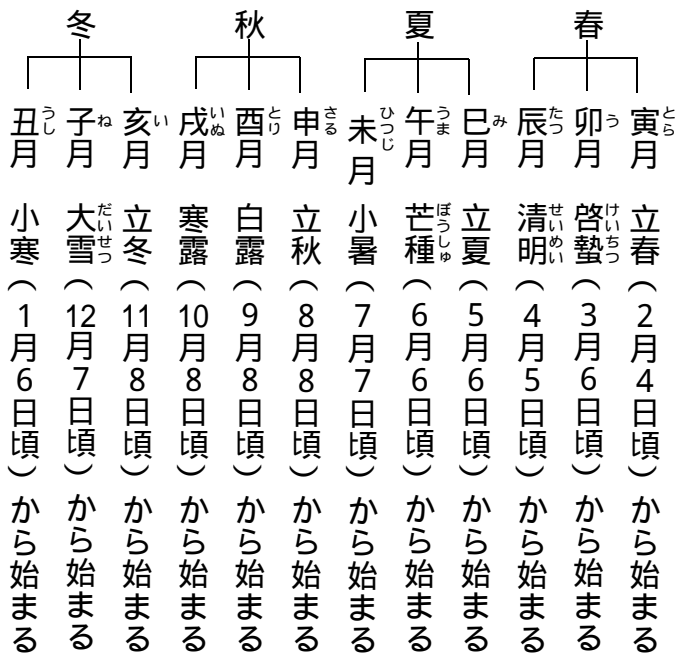
干支による暦

中国では古くから年月日時をすべて干支で表示するといふ一風変わった暦こよみを使用している。

この干支による暦は、次に述べる二十四節気によって厳密に太陽の運行との同期が図られており、構造的には太陽暦と言っても良いものである。

二十四節気は、十二の節気と十二の中気からなっており、一節気一中気をもつて一節月せつげつとし（二十四節気によって定義される月を節月と言つ）、春夏秋冬それぞれに三つの節月が配され、一年は十二節月で構成されている。

また、この二十四節気は、黄経こっけいにより天文学的に厳密に定義されている。黄経とは、地球上の太陽の位置を示すために設定されている度数で、春分を黄経〇度とし、黄経上を十五度ずつ分割し、節気と中気が交互に配したものである（詳しくは天文関係の本を参照してください）。



太陽暦では、一年の始まりは、キリストの誕生日の七日後（聖書に天地創造に七日かかったとあるから）の一月一日と定められているが、干支暦の一年の始まりは立春とされている。立春は二月四日頃となる。「頃」と言うといい加減ではないかと思われるかも知れないが、これは二十四節気の問題ではなく、太陽暦の日付のずれに起因することである。

「干支による暦」

右のように、干支暦では、寅月、卯月、辰月の三節月を春という。つまり、子平の書に「春」とあっても、桜が咲き、新学期が始まる頃のことではなく、立春より始まる、寅月、卯月、辰月の三節月の正確な期間のことなのである。

立春の頃は、日本では春と言うにはほど遠い寒冷な時期に当たる。中国においても日本と差ほど変わらない。古代中国人がどうしてこのような時期を春の始まりとしたのか不思議に思われることと思う。その理由については、いろいろな考えがあると思うが、私は日差しの強さの変化によっているのではないかと推測している。つまり、

気温の春ではなく、「光の春」なのである。

冷夏があつたり、暖冬があつたりするので、気温は季節の変化を知るための正確な目安とはならないが、日差しの強さは地球の公転軌道上の位置によって決定することなので、正確な目安となるのである。黄経によって定められている節月は、日差しの強さの変化に正確に対応しているのである。古代中国人は日差しの強さの変化に、四季循環の不変の法則を見いだしていたのである。

節気の時刻は、分単位まで厳密に計算され、前年の二月

「干支による暦」

の官報に文部省管轄の国立天文台からデータが発表される。その九ヶ月ほど後に発刊される『理科年表』にそのデータが掲載され、一般の書店でも資料を手に入れることができるようになる。

「干支による暦」

また、干支暦における時間の最小単位は刻じくである。現在の時間で言うと二時間である。一日二十四時間であるから、一日は十二刻ということになるが、子の刻ね（午後11時から翌午前1時まで）が二日にまたがっているため、

早い子の刻（午前0時から午前1時まで）

遅い子の刻（午後11時から午後12時まで）

があつて、一日には十三通りの刻があることになる。

干支暦により、平成十年十月十日午前十時を表記すると次のようになる。

年	戊寅	子平では、この干支で表記した生年月
月	壬戌	日時を元に命運を推す <small>お</small> （自作ソフトの中
日	庚寅	の「万年暦・24節気計算」をダウンロード
時	辛巳	ドすれば、簡単に確認ができます）。

日本で子平が四柱推命と言われることになったのは、右のように、干支暦によると、年月日時は

四つの干支で表記されるからである。これを、四柱八字とか、ただ単に八字と言う。

また、右よりして、平成十年の干支は、つちのえとら 戊寅であることがわかる。年の干支であるので、年柱とも言つ。年の干は つちのえ 戊、月の干は みずのえ 壬、日の干は かのえ 庚、時の干は かのと 辛で、干は天に対応するので、天干と言い、年月日時それぞれの支は地に対応するので、地支と言う。

最終更新
2000・1・16

「干支による暦」